小豆「十育180号」道の優良品種に
24年にも一般栽培、十勝農試開発

地面から10センチの高さに付くさやの数が少ないのが特長

十勝農業試験場が開発して道の優良品種に認定された「十育180号」

道内で普及すべき農作物を定める道の優良品種に、十勝農業試験場（芽室）が開発した小豆の新品種「十育180号」が認定された。地面から離れた場所にさやが付くため機械収穫に適した品種で、「きたろまん」からの置き換えが期待される。早ければ2024年産から一般栽培できる見通しだ。

「十育180号」は、あんや和菓子原料向けに開発され、地上10センチに付くさやの数が少ないことから、既存品種に比べてコンバイン作業でも収穫ロスが少ない特長がある。成熟期や倒伏に耐える力は「きたろまん」と同程度で、業者による加工や食味も同等と評価されている。

小豆生産は、国産の9割を道産が占め、道産の7割を十勝が占めている。小豆の消費は、長期的には減少傾向にあるが、一時期の海外産への切り替えやコロナ下の需要減からは回復傾向。大手メーカーやコンビニが輸入小豆から国産に切り替える動きがある。

ただ生産現場では、価格や収量が安定して省力化が図れる大豆が増えるのに対し、小豆は伸び悩んでいる。特に収穫作業では、小豆はロスを抑えるためにビーンカッターで切断後に収穫・脱穀する2工程の「ピックアップ収穫」が主流で、大豆と比べて労働時間が2倍以上かかるデータもある。

機械収穫に適正

小豆生産の省力化や安定供給が求められる中、同試験場豆類畑作グループでは、13年から人工交配を始め、選抜を重ねて育成してきた。豆類専用のコンバインや調整次第で小麦のコンバインでも、ロスを抑えて収穫できる品種を開発した。「きたろまん」と比べた収量は、手刈りはやや少ないものの、コンバイン収穫では上回った。

和菓子業者などには、加工や食味に優れた「エリモショウズ」の人気が根強く、2番目に生産量の多い「きたろまん」からの置き換えを想定している。北海道優良品種認定審議会の答申を受けて道は近く、優良品種に決定して公示する。今年も栽培試験を行い、早ければ24年産から種子が出回る見通し。

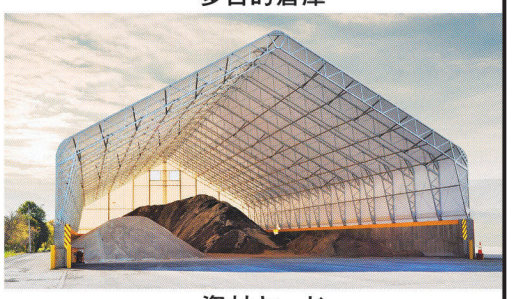
同試験場豆類畑作グループの大波正寿研究主幹は、「北海道農業の大規模化や機械化に対応した小豆の栽培に貢献できる品種になった」と話している。

◇

今年度の北海道優良品種認定審議会では、「十育180号」のほかに、いんげんの新品種「十育A65号」、日本甜菜製糖や北海道糖業によるビート、ホクレンによる飼料用トウモロコシなど9品種が認定された。一方、でんぷん原料用ジャガイモとして長く作られてきた「紅丸」や「コナフブキ」など14品種が認定取り消しとなった。シストセンチュウの抵抗性がなく、他品種への移行で作付が減少していることが理由。ただ審議委員からは「シスト対策の整理がついていない」との意見も出た。

多目的Dome樹脂系膜構造物
CAL HOUN VPE CANADA
DOME & Shelter
畜舎・堆肥舎・飼料庫・麦稈庫・乾燥ロール・格納庫
樹脂系膜構造物の特徴
明るく開放的
施工期間を大幅短縮
ローコスト・ハイクオリティ
柱がないので自由にレイアウト
●ポリタープシートは15～25年メーカー保証付
●アーチパイプはALL亜鉛ドブメッキ
●オプション：天窓、巻上げ、換気扇
●その他オプション：サイド巻上げ、換気システム

●畜舎建築特例法●建築確認申請ご相談承ります
見学会随時開催
DOME & Shelter 株式会社 ドーム&シェルター
札幌市白石区東札幌2条5丁目7-8 3D-5B TEL.011-799-1675 https://dome-sh.com

多目的倉庫

資材ヤード

格納庫